

### イランからのカットグラス碗片

ガラス器の一部と考えられているこの破片は、沖ノ島で奉獻品として残された品々の中でも珍しいものです。これは 6 世紀に遡るもので、沖ノ島から少なくとも 7,000km 離れたササン朝(現在のイラン) の優れた職人技の一例です。

古代ペルシャは文化的な影響力が大きく、この器が日本に伝わったと思われるシルクロード経由でペルシャと古代中国との間に交易や外交が行われた形跡が多く残されています。中国の高官の古墳からも似たような事例が見つかります。ガラス片は薄く半透明で、表面全体に施されていたと思われる独特な円形レリーフの一部が含まれています。この洗練された効果は、「型吹き法」として知られるガラスを金型に膨らませる方法によってのみ生み出されるものです。